

止し難いであろう（中止を命ぜらる）

白鳥広正（次の説明す）

（要旨）「加藤氏の行論は内容的にも理論的にも少しも我

白と我しい教訓をよ、得ない。加藤氏は現実の問題

に言を論及せず、謀に空しく抽象的である。彼の盟軍地

の強者と至国為例は同一に謀略し、はるかに女と云はれるが、

我が方針書の中には、毫も右翼排撃の理想がないのは

ないが、二軍／＼的の強者強者の強者を集り、至國強

／＼の方針の上になつたらぬ、為例の二つを導じて女の才力を

踏み出すべきである。吾等々々の中に於ては、これに對して

流米を排斥し、我々の陣営に方向を向け、あるべし、

力すべしである。例へば至國の二つをレシカ若年訓練

所を外部からのみ排撃し、ないで、寧ろ内部に潛入して

内から女の新性を曝露し、と如く、（注意を命ぜらる）

吾等々々の内から女の任務を遂行するに女に考加し、

以て階級的に、敵面的に、至國の統一を計るべきであると云

へるが故に、我々は至國為例の二つを加護するに當るもの

である。去々（後略）

△々々保固（ケラブ及対抗）

（要旨）「強者。強者を観る時、日本の至國強者の統一は馬也

向ふ心でなされる戦線統一（さ）出来ぬことはないが、私はず

かしい理論は知らないが、日常中吾等に於て、反動的右

翼強者の行動を至國為例の模範紙に依つて報道すべ

き系せよ、女の本質を知る。其等の右翼強者が流米す

るケラブに何の要ありと考加するが、ケラブに考加し、外部